

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑦

名前

「

」

いにしへの奈良の都の八重桜
エ なら みやこ や えぎくら

今日九重に匂ひぬるかな
きょうこのえ におイ

伊勢大輔
いせのたいふ

夜をこめて鳥のそら音ははかるとも
よ とり ね

よに逢坂の関はゆるさじ
おうさか せき

清少納言
せいしょうなごん

今はただ思ひ絶えなむとばかりを
いま おもイ た ン

人づてならでいふよしもがな
ウ

左京大夫道雅
さきょうのだいぶ みちまさ

朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに
あさ うじ かわぎり

あらはれわたる瀬々の網代木
ワ せ ぜ あじろぎ

権中納言定頼
ごんちゅうなごんさだより

恨みわびほさぬ袖だにあるものを
うら こそて

恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ
こい く シ な お

相模
さが み

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑦

名前 〃

もろともにあはれと思へ山桜
おもエやまざくら

花よりほかに知る人もなし
はな し ひと

前大僧正行尊
さきのだいそうじようぎようそん

春の夜の夢ばかりなる手枕に
はる よ ゆめ たまくら

かひなく立たむ名こそ惜しけれ
イ た ン な お

周防内侍
すおうの ないし

心にもあらで憂き世にながらへば
こころ う よ エ

恋しかるべき夜半の月かな
こい よ わ つき

三条院
さんじよういん

あらし吹く三室の山のもみぢ葉は
ふ みむろ やま ば

竜田の川の錦なりけり
たつた かわ にしき

能因法師
のういんほうし

さびしさに宿を立ち出でてながむれば
やど た い

いづこも同じ秋の夕暮れ
おな あき ゆうぐ

良暹法師
りようぜんほうし